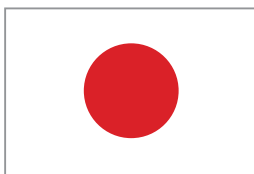




招待状

日印文化交流記念祭



日時：2009年11月23日（月・祝）

14時 開場（日本初インド聖典“ヴェーダ”の展示会）

15時～17時半 記念祭

（言葉のヨーガ“ヴェーダ”記念講演、神への歌“バジャン”、劇、瞑想・マントラ等）

18時～記念パーティー（インド舞踊/古典音楽コンサート）

会場：「ラ・ベルオーラムホール」

東京都台東区東上野1-26-2 電話 03-3832-0457

主催：シュリ サティヤ サイ セヴァ オーガニゼーション

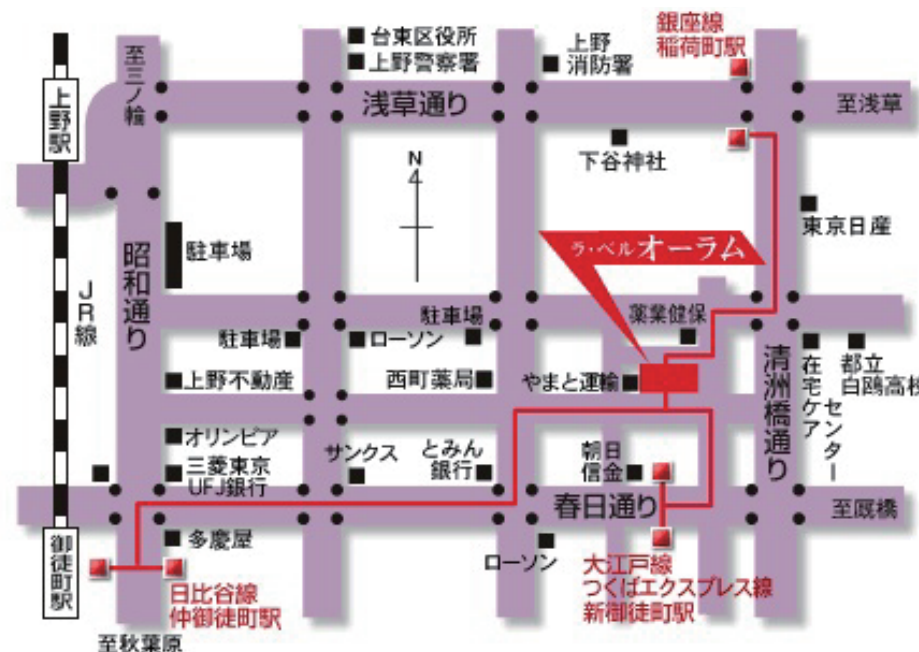
<http://www.sathyasai.or.jp/>

協賛：サティヤサイ教育協会

後援：インド大使館、(財)日印協会、(財)東方研究会、
エアインディア、インド銀行東京支店、インドステイト銀行東京支店、
ニューインディア保険、在東京インド商工会議所、他多数インド系企業・諸団体

お問合せ：(TEL) 080-5385-3188 (E-mail) saitama@sathyasai.or.jp

アクセス



- 大江戸線・つくばエクスプレス線 新御徒町駅「A1」出口 徒歩2分
- 日比谷線 仲御徒町駅北口 徒歩6分
- 銀座線・稲荷町駅 徒歩5分
- 山手線 御徒町駅北口 徒歩8分

謹啓 爽秋の候、皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて今日、日本とインド両国との間には、経済や文化を始め多岐に亘つての様々な交流が日々繰り広げられ、目を見張るばかりの素晴らしい両国間の親睦ふりと多くの話題に事欠かない状況下であります。経済面においては1990年代におけるインドの開放政策以来、ITを中心にしての日印の関係は、益々盛んとなり、今や日本の経済において重要な役割を担っています。

また文化面においては、或いは今日のインドを語る上で古からのインド文化や霊性を復興させた、そしてインド国民に自国文化への誇りを取り戻させた聖者サティヤサイババに触れない訳にはいかないのではないのでしょうか。

聖者サティヤサイババは、1926年11月23日に南インドのプッタパルティという小村に生まれ、14歳の時からその使命をダルマ（正義）とヴェーダ（インド聖典）の復興と定め、インド古来の霊性文化を正しく伝えるとともに、教育・医療をはじめとする数多くの社会奉仕活動に取り組んできました。その活動、及びそのメッセージは、今や世界中の国々の様々な局面に取り入れられております。

ところで、本年よりユネスコの無形文化遺産一覧に「ヴェーダの吟唱」がリストアップされ、世界的に「ヴェーダ」への関心が高まりつつありますが、それも単なる偶然ではなく、聖者サティヤサイババの長年に亘る地道な活動の精華であるとも考えられます。

日本においても34年前にシュリサティヤサイセヴァオーガニゼーション日本支部が発足し、以来、今日まで数多くの書籍の翻訳・出版を手掛け、と同時に霊性文化活動や奉仕活動にも邁進してきた次第であります。

つきましては、シュリサティヤサイセヴァオーガニゼーション発足34周年とサティヤサイババ生誕84周年とを祝し、来る11月23日に文化人や政財界の方々をお迎えして、インドの至宝である「霊性」を、劇や音楽や踊りを通じてご紹介する日印文化交流記念祭を開催する運びとなりましたので、ご多忙のこととは存じますが是非ともご来場を賜りたく、ここに謹んでご案内申し上げます。

謹言

平成21年10月吉日

シュリ サティヤサイ セヴァオーガニゼーション
関東地域世話人一同

あなた方は「文化」と「霊性」のことを、丁度二つが別物であるかのように人々が話しているのを耳にします。私の考えでは、「文化」は「霊性」から引出した特質にすぎません。外見では一つ一つ違ってある全ての種類の菓子に砂糖が共通しているのと同じように、霊性はあらゆる土地と国の一見異なっている文化に共通のものです。つまり、文化は全てを包含する霊性の一部であることを認識すべきです。

（サティヤサイババの言葉）